

「海のダイヤヤ」養殖北上中

クロマグロを地域ブランドに

「海のダイヤヤ」と呼ばれる最高級品「クロマグロ」(本マグロ)の国内養殖が、適地とされた暖かい南日本だけでなく、水の冷たい日本海側へと広がっている。国際的な漁獲制限による品薄感を背景に、成長したクロマグロを捕まえ、いけすで短期間、えさを与えて太らせる「養殖」の手法でブランド化し、地域振興にもつなげる狙いがある。(及川智洋)

「能登本まぐろ」を日本一のブランドに。2月下旬の石川県庁。1日を超えるクロマグロのパネルを示す谷本正憲知事ら関係者の間から、意気込みが上った。今年から能登半島の珠洲市でマグロ養殖を始める北海道函館市の水産会社「道水」に対し、県は区画漁業権の免許状を交付した。

計画は、クロマグロを短期間いけすで太らせ、消費者に人気のある脂身(トロ)の多い肉質に変えて売り出す「養殖」と呼ばれる手法だ。同社はモロッコ、マルタ島など地中海沿岸やメキシコでマグロ養殖事業を手がけ、今回初めて国内での本格的な養殖の場として能登を選んだ。「漁場に近く、海流の影響を受けにくい位置。夏場の水温が高めで、11月から下がるため、身が締まって

る。天然クロマグロが端境期になる10月から3月にかけての出荷を目指す。石川県漁業協同組合によると、山陰沖の隠岐諸島あたりから能登半島沖、新潟県の佐渡島にかけては主に初夏のクロマグロ漁場で、漁獲量は約2千トとみられる。その多くは設備の整った鳥取県の境港に水揚げされてきた。能登沖で取れたものを石川県側に水揚げすることで漁業者には船の燃料代などを抑える利点も見込めるといふ。

同漁協の桶川学・常務理事は「養殖でトロを付加価値につける冬場向けだけでなく、夏場の天然ものも金沢港などで受け入れられる態勢を整えたい。将来は有名な青森県の大間に匹敵するブランドにしたい」と話す。過疎化の進む能登の地域起しへ、県の期待も強く、来年度予算案に180万円を計上してブランド化を援助する。

クロマグロの養殖は80、90年代ごろから沖縄県や鹿児島県の南西諸島を中心に広がっていった。数年前からは大手業者も続々と参入し、「町おこしの目玉」と養殖振興に力を入れる自治体が増えた。昨年「振興プラン」を発表して業者誘致を進める長崎県は代表的な例だ。5年前に2千ト程度と見られていた国内養殖ものの出荷量は、昨年

には6千ト近くまで増えたとみられ、近い将来に1万トに達するといった見方も業界内にある。養殖の内容にも変化が起こっている。日本水産と子会社が07年から京都府伊根町で地元の漁協と連携して本格化させた短期のクロマグロ養殖だ。南日本で一般的に幼魚を捕獲して2、3年かけて成長させる手法と違い、巻き網漁で成魚を捕らえ、数カ月間で太らせて出荷する。若狭湾のいけすは冬の表層水温が12、13度と低く、脂身をつけやすい環境という。

07年度は約90トを出荷。08年度は台風の影響を受け、見込んで売り上げは得られなかった。日本水産の高橋誠治・飼料養殖事業部長は「リスクは伴うが、来年度も引き続きチャレンジしたい」と話す。

能登の動きは、伊根よりさらに北での大規模な短期養殖といえる。冬場の水温の低さをトロ増加に生かすのも同様だ。東京・築地市場のマグロ専門

仲卸業者「松井水産」の松井広史さんは「トロを好む消費者は増えていて、以前よりクロマグロの養殖ものへの抵抗も薄れている。『伊根まぐろ』の品質は市場でも好評だった」と話し、日本海での養殖拡大に注目している。

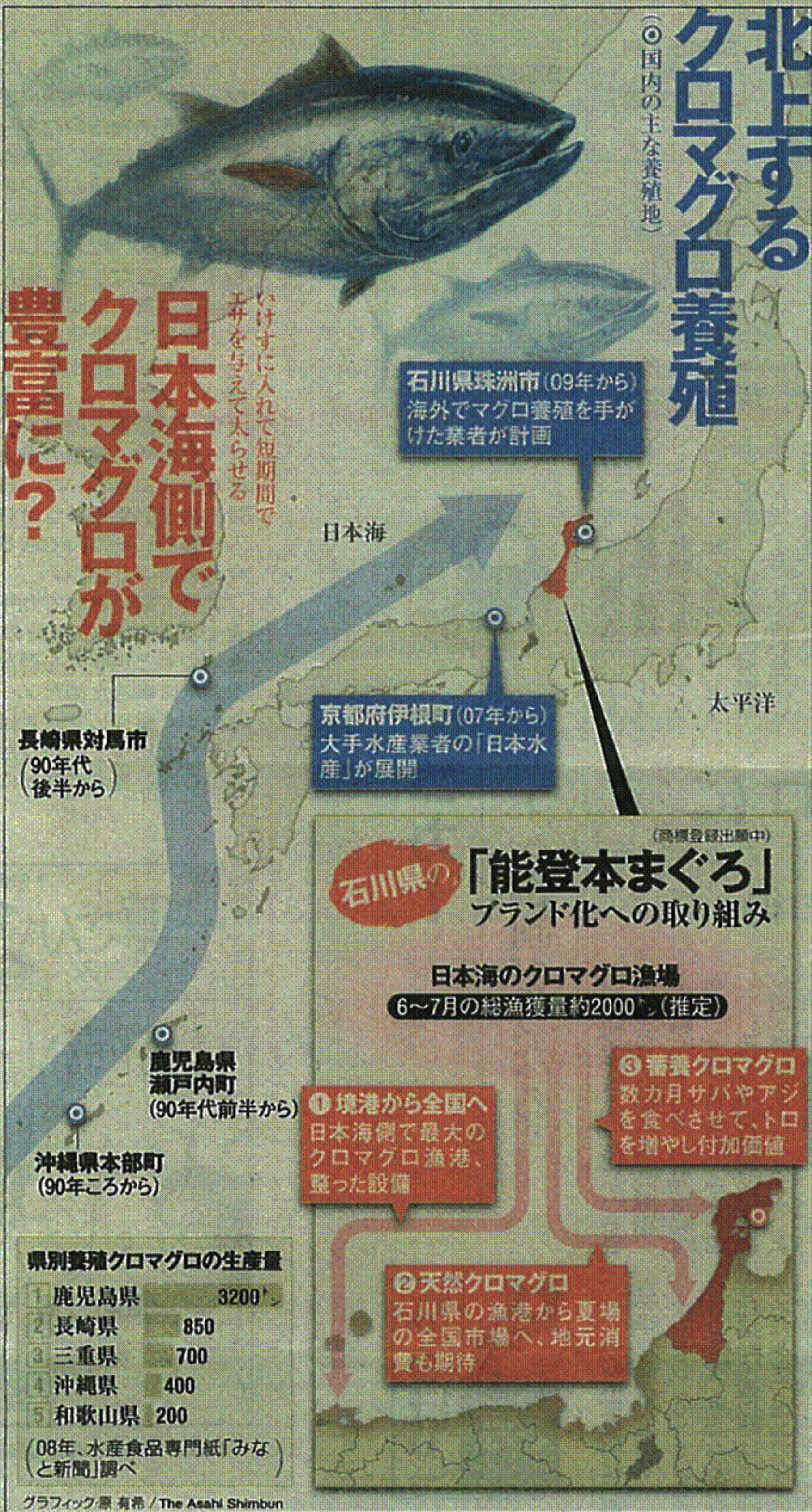
資源管理が課題

町おこしの期待を受けながら日本海側を北上しつつあるクロマグロ養殖事業。一方で、適正な資源管理という国際的な課題も浮かび上がっている。日本周辺を回遊するクロマグロの産卵場は、沖縄南方の海域だ。毎年5、7月にここで生まれて、成長しながら主に太平洋側を北上し、一部が日本海側に回るともみられていた。ところが、近年は日本海でも一定量の産卵があるという見方が有力になっている。実際はまだよく分かっていない。市場関係者は「ここ数年は太平洋側のクロマグロが減って、日本海側で豊富という印象が強くなった」と指摘する。日本海側の境港が水揚げ

量を増やしている一方で、太平洋側の有力漁港、宮城県の大釜などの退潮が目立つという。マグロを管理する国際機関の一つ「大西洋まぐろ類保存国際委員会」(ICCAT)は、資源の減少を背景に、これまで養殖が盛んだった東大西洋・地中海のクロマグロの漁獲量を今年から3年間で3割減とすることで合意した。海外の養殖が先細りになるという予想が、国内養殖が期待される一因になっている。自然保護関係者の間では「シジラの次はクロマグロか」と言われるほど、資源保護への関心が高まっている。

北上するクロマグロ養殖

(◎国内の主な養殖地)



いけすに入れて短期間で太らせて太らせる

長崎県対馬市(90年代後半から)

鹿児島県瀬戸内町(90年代前半から)

沖縄県本部町(90年ころから)

京都府伊根町(07年から)大手水産業者の「日本水産」が開発

石川県の「能登本まぐろ」ブランド化への取り組み

養殖の「能登本まぐろ」での地域起しに期待をかける石川県水産課は、来年度中にはマグロに関するシンポジウムを開く予定で「資源管理もテーマの一つ」と話している。